



二十六聖人

2024年 1月号

No.365 (2023年12月31日発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

巻頭言：愛の食卓に与りましょう

明けまして、おめでとうございます。2024年、新しい年を迎えて、信者の皆さんの家庭に、神様からの豊かな恵みが注がれるよう、お祈りいたします。どうか、神様がいつも信者の皆さんと共にいてくださいますように。また、日々の生活を祝福してくださり、信者の皆さんがあらゆるところで、豊かな実を結ぶことができますように。その豊かな実りが、わたしたちには救いのための捧げものとなり、神様には賛美と感謝の捧げものとなりますように。

ミサ式次第には奉獻文という箇所があります。それは、パンとぶどう酒を備えておいて、神様を賛美する叙唱から、主の祈りの前までの箇所です。その奉獻文は主に四つありますが、すべて、所謂「結びの栄唱」で終わります。それは、「キリストによってキリストとともにキリストのうちに、聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、世々に至るまで、アーメン。」という箇所です。

この栄唱を唱え、または、歌う際に、司祭は御聖体を載せたパテナと、御血が入られたカリスを高く上げます。それは、十字架の上で成し遂げられた神様の救いの御業を思い起こしながら、神様に最高の賛美と感謝をささげる行為なのです。その救いの御業は「父と子と聖霊の神様」、つまり、三位一体の神様の御業でしょう。イエス・キリストはその救いの御業を記念するようにと、最後の晩さんで命じられました。そこで、わたしたちはその命令に従ってミサ聖祭を行っているわけです。

それを考えたら、確かに、わたしたちはミサに与ることによって、三位一体の神様の食卓に与っていることが分かります。しかし、それはただ、パンとぶどう酒という食べ物だけの食卓ではありません。わたしたちは、別の食卓にも与るように招かれています。それは、救いの御業の食卓で、十字架上で成し遂げられた愛の食卓なのです。その愛

の食卓に与ることによってこそ、パンとぶどう酒の食卓は完成されるわけです。

その愛の食卓に与ることとは、勿論、愛に生きることでしょう。実に、わたしたちは愛に生きることによって、まことのキリスト者となります。それは、御子イエス・キリストが聖霊、つまり、愛の霊の交わりの中で、御父の御心に適う救いの御業を成し遂げられたことと同様です。ですから、わたしたちも愛の霊による交わりの中でしか、毎日の十字架を通して与えられる愛の食卓に与れないのです。

体の健康を守るためには、偏食してはいけません。同じく、魂の健康を守るためには、毎日の愛の食卓に用意されるさまざまな食べ物をちゃんと食べなければなりません。その食卓の上には、どんな食べ物があるでしょうか。そこには、「理解し合い、受け入れ合

い、赦し合い、助け合い、抱き合い」などのものがあります。或いは、「耳を傾けること、心を開くこと、あやまること、自分を低くすること」のようなものもあります。時には、「喜びだけでなく、悩みや苦しみや涙を共にする」こともあります。

でも、それらは全部、愛の霊による交わりのメニューでしょう。わたしたちは、そのすべてのメニューをちゃんと食べることによって、三位一体の神様の丈夫な子供として成長できるのです。そして、まさに、元気な共同体となれるわけです。今年、わたしたちみんなが、そういった愛の食卓に共に与り、共に成長することができるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

2023年12月教会委員会報告（開催日：12月10日）

【検討事項】

1. 来年1月14日新成人の祝い（兼教会新年会）はコロナ前のようなパーティー形式で行うことにしました。
2. 今回のクリスマス献金（12月3日から1月8日まで）ではガザ人道支援募金も含めて献金をお願いすることにしました。当教会が従来から支援している七つの団体を優先し、ガザ募金については十分に集まらなければ降誕節後も継続します。なお、この期間中はウクライナおよびトルコ向け献金を一時中断します。
3. 2024年度信徒集会を2024年2月25日（日）に開催する予定です。
4. 降誕祭24日19時と25日10時のミサ後にチョコレートと飲料を用意します。神父様から餅のプレゼントもあります。

5. 降誕祭24日19時と25日10時のミサでは前庭を全面駐車禁止にします。

【報告事項】

1. 11/26「ふれあいミニバザー 再会／Reunited」の結果報告がありました。
2. 事務所は12/28から1/4まで年末年始休みになります。
3. 典礼委員会
 - ・年明けの週日ミサは1/8からです。枝の回収を1/17から2/7まで行います。
 - ・1月から第三日曜日10時ミサを「こどもとともにささげるミサ」とします。
4. 教会学校
 - ・12/24の10時ミサで聖劇を行います。
 - ・初聖体の勉強会を1/14から6/2まで、初聖体当日を含め全16回行います。

- ・1/14の10時ミサ後に初聖体の子供6名を紹介します。
5. キリスト教講座
12/2に黙想会、12/3に堅信式、12/10に入門式を行いました。
6. 福祉委員会
・12/15に横浜療育医療センターをクリスマス訪問し、プレゼントを渡します。
・ミニバザーに参加した外部4団体からお礼の言葉を頂きました。「これ迄、新型コロナの影響で販売ができませんでした。参加させていただき、ありがとうございました。」とのことです。
7. 建物管理委員会
玄関ダウンライト（蛍光灯）が劣化したのでLEDに交換しました。二階蛍光灯も劣化が見られるので来年以降の予算でLED化する予定です。
8. 共同墓地委員会
・11/15上大岡共同墓地でH.様納骨式。
11/22上大岡共同墓地でK.様（3体）納骨式。いずれも神父様とK委員が出席。
・生前予約は手続済1名、手続中3名。
・上大岡共同墓地の散骨場所が一杯になってきたので対処方法を検討します。
9. ヨゼフ会
・11/12に例会と馬小屋建設、11/25にバザー会場設営をしました。11/26バザーでは焼鳥、コーヒー、飲料を出店しました。
・12/3堅信式パーティーでコーヒー手伝い、同日、馬小屋の人形出しと飾り付けを行いました。
・12/10にコーヒー光。12/24降誕祭夜ミサ後にコーヒー提供、12/30忘年会を予定しています。
10. マリア会
・マリア会はバザーのお餅を担当し協力しました。
- ・アンナ会は、バザーで手芸品の販売をして協力しました。
 - ・パーティー係は、12/3(日)堅信式後お祝いパーティーの飲食準備、12/8(金)「第三地区司祭の集い」の飲食準備をしました。
 - ・ステラマリス帽子を編む会は、手編みの帽子185枚をプレゼント用にセットしてラッピングをし、11/17(金)にステラマリス横浜本部に届けました。
 - ・ポリビア支援グループは、11/19(日)のんびり日曜日ジャム販売を実施しました。次回12/17(日)のんびり日曜日でジャム販売を実施予定です。
11. 青年会
・11/12に子供、保護者、青年約20名で保土ヶ谷教会を訪問しました。ごミサとバザーに参加して出会いと再会の喜び溢れる時となりました。
・12/24の10時ミサ後に子供たちのクリスマス会を行います。
・2024年1/21の10時ミサ後に青年達の韓国訪問の報告会を行います。
12. インターファミリー
・11/19にミーティングを行い、バザー関連、アルペなんみんセンター入所者へのグリーティングカード、来年度後援会(9/22予定)、来年度役員交代などを話し合いました。次回ミーティングは来年1/28の予定です。
・11/26ミニバザーに粥・春巻を出店しました。
13. 一粒会
・ザビエル祭に二俣川26名、保土ヶ谷7名、司祭3名の計36名が参加しました。
・12/17に一粒会の集いを行います。一粒会月定献金会員の募集を開始する予定です。

以上

韓国訪問報告 その2

10月21日から23日までの2泊3日、韓国はソウル、そして議政府教区へ行って参りました。予定をすべて…いえ、予定以上の計画をすべて無事に過ごし、素晴らしい時間を過ごさせていただきました。1月21日(日)に報告会を計画しておりますが、それを前に、12月号に続きこの1月号でも『参加者の声』をお届けします。

参加者の声



姜神父様が司牧されていた、トクケドン教会のステンドグラスの前で。

3日目の午後に、姜神父様が以前に主任司祭をされていて、今回の旅でとてもお世話になった信徒さん達が所属されている徳溪洞(トクケドン)教会を訪問しました。当日は月曜日で信徒さんはいらっしゃらなかったのですが、姜神父様が主任司祭として教会建設をずっと支えていらした痕跡が至る所に残っていました。姜神父様が心を尽くして務められている姿が目につかぶようで、また、コロナの期間ずっと二俣川教会を支えて、守って下さっていた神父様の姿とも重なり、改めて神父様の存在の大きさを感じました。姜神父様をはじめ、多くの方々との繋がりの中で生まれたこのご縁を今後も大切にしていけるように、これからも過ごしていきたいと思います。この度は、皆様の支えのもと、とても貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

マリア・ローザ S. M.

今回僕は、韓国も海外も初めてで、他にも初めて尽くしの3日間になりました。色々な人のおもてなしを受けて本当に感謝しかありません。最高でした。ありがとうございました！

ヨハネ五島 T. T.

この機会に韓国に行けたことを本当に特別だなと感じ、教会の皆様、周りの大人たち、友達、姜神父様など、皆様に感謝しています。韓国では、色々な方にお世話をしてもらい、初対面なのに、凄く親切にしてもらって、初めて行く国だったのですごくアットホームに感じました。1日目の夜は、1月に日本に来てくれた韓国の青年達に会い、家で豪華なご飯を作ってくれてご馳走してくれました。本当に素敵な家族で、みんなそれぞれに感謝いっぱいです。そして、2日目、3日目には色々な教会を訪れ、一般の人が入れない教会の中の様々なところまで見せてもらい、日本ですら入ったことの無いところ



にも入って、良い体験をしました。そして2日目に行った明洞カテドラルではミサを受け、始まる前に聖歌隊の歌声が響きわたったことが一番印象に残っています。言語が違うし、感じかたとかも違う中で、すべてのことが本当に素敵だなと思いました。李神父様にも久しぶりにお会いでき、いっぱいお話ししてはしゃいで色々なところにも連れて行ってもらって、本当に感謝と、また早く会いたいという気持ちばかりです。なによりも凄いことは司教様にもお会いできて、座りながらゆっくり色々な話をさせてくれて、本当にこんな機会はないだろうなと思いました。この韓国の旅は、行くまでの準備を何ヶ月も前から始めて、色々と問題もありつつだったけど凄くたくさんの人にお世話になって、本当に夢のように素敵な旅になりました。

ダニエル O. Y.

『姜神父様が学んだ場所、静かに祈りたくなる場所』今でも韓国での時間を思い出すと、心がぽつと温かくなります。私たちをもてなしてくださった方、一人ひとりに心から感謝の気持ちを伝えたいです。10月21日、1日目、信じられないくらいの完璧な秋晴れの中、議政府教区の神学校を訪問しました。7月に二俣川教会を訪ねて来られた神学生のうちの3名が日本語での挨拶で私たちを出迎えてくれました。自然に囲まれた素敵な神学校の中を、神学生達と会話をしたり、姜神父様の思い出話を聞きながら歩きました。地面には大量の銀杏が落ちていて、踏まないように避けながら歩きました。神学校の中の聖堂は、今回の訪問の中で一番思い出に残っている場所です。聖堂内の座る場所には決まりがあり、新入生の席が一番後ろで、学年が上がるにつれて祭壇に近い席へ移動していくシステムの様です。祭壇に近づくにつれて、各座席に置いてある聖書に年季が入っていたり、置いてある本の数が増えていたり、マイ座布団なるものを置いていたり、そこで学ぶ神学生の様子がじわじわと伝わってきました。色とりどりのスタンドグラスから差し込む光がとても綺麗でした。この聖堂はたくさんの神学生を見守ってきて、姜神父様もその中の1人だったのだと思い、感慨深い気持ちでした。イ・ジョンユン神父様、イ・ビョンホン神父様、そして姜神父様。故郷を離れ、私たちのためにたくさん祈り、たくさんの愛を注いでくださる神父様たちに心から感謝したいです。こんなことを言うのは信者失格ですが、久しぶりに静かに祈りたいという気持ちに包まれました。未来の神父様の為に。ずっと前から皆で行きたいと言っていた韓国訪問が叶った感謝の為に。これからもこうやって国籍が違ってても神様のもとで繋がってられるように。 アウグスティナ Y. M.

「光化門」の前で。



議政府教区のイ・ギホン ペトロ司教様と。



「2023年ザビエル祭」参加記

～小さな自分ができること・いただいたこと～
2023/11/23(木) 於：東京カトリック神学院

●参加人数と内訳

司祭 3名… 姜真求 神父様、牧山善彦 神父様、李延胤 神父様
保土ヶ谷教会…7名 二俣川教会より…26名 合計…36名

穏やかな秋晴れの朝。バス参加者は二俣川教会に集合、東京カトリック神学院へ向かいました。コロナ禍に信者になった私にとって、今年が共同体の皆様と共に歩む初めての年です。折しも今年のザビエル祭のテーマは「共に歩む」でした。神学生の皆様が神様のお恵みのうちに司祭叙階へと歩まれるよう、未来の神学生の方々へ司祭召命のお導きがあるよう、私たちにも司祭召命のために働く力をいただけるよう、ミサで共に祈りさせていただきました。

当日のプログラムは本当に多彩でした。稲川神父様のミサでは「悪魔に負けそうな時にイエス様が来てくださった奇跡」を、林神父様からは「聖ペトロと聖パウロが同じ祝日で示して下さった共に歩む意味」を、神学生の皆様からは「日々のお勤めの中で来訪者を歓迎することの尊さ」を教えていただきました。神学生の方々が案内して下さった学びと生活の場・素敵な聖歌の贈り物・参加者同士で祈りや食事や談話を楽しんだ場など全てに愛と慈しみがありました。

「司祭召命にはたくさんのお祈りとサポートが必要」と聞いて「小さな自分にできることがあれば」と参加致しましたが、神様はザビエル祭を通して私が捧げたお祈り以上のお恵みをくださったのではないかと思います。そのお恵みによって私たちの司祭召命の祈りの力がより強められますように。最後になりましたが、ザビエル祭の参加を実現して下さった姜神父様、牧山神父様、李神父様と一粒会の K.さん・I. さんに感謝いたします。

マグダラのマリア S. S.



<一粒会から月定献金のお願い>

～ジュース1本、おやつ1回の犠牲から～ 神学生支援のために、祈りと献金をご協力いただきありがとうございます。新規の「一粒会月定献金会員」を募集いたします。神学生養成のためにご協力をお願いいたします。コロナ禍で中断された方は遡ることなく新たに再開いただければ幸いです。

一粒会

ふれあいミニバザー 再会／Reunited 報告

例年は10月末に行われることの多いバザーは、今年、約一か月遅れの11月26日に、規模を縮小して開催されました。ここに至るまでの何と大変だったことか！時間の無い中で、今回私たちが目指す新しい形の“教会”のバザーを実現させるために、毎週のように会議をし、意見を出し合い、時にはぶつかり合いながら準備を進めました。当日は寒い寒い日曜日でしたが、体調をくずす人も出ず、無事に開催できましたことを、神様に深く感謝いたします。

催事内容：お餅つき、焼き鳥、ベトナム揚げ春巻き、フィリピン鶏粥、コーヒー販売、外部団体の出店、クリスマス手芸品販売、子どもたちのクリスマスツリー企画、十字架の道行き案内表示、青年会韓国訪問スライドショー上映、聖堂での聖具・祭服展示と年末福祉献金寄付先の紹介、参加者も出店者も全員集合の結びの集い



バザー実行委員長のつぶやき

私はバザー報告に相応しい者ではありません。ほとんどの時間、二階で食券を発売していたのでメイン・イベントの餅つきや聖堂企画も見逃してしまいました。「おしるこ餅」が大人気だったのを知っているくらいです。ですから当日の様子は写真を見て頂くのが一番でしょう。ここでは今回のバザーの発端から開催日までの私の印象を述べたいと思います。

ご存じの通り、コロナ禍によって、2019 年を最後にバザーは長い中断を余儀なくされました。再開が決まったのは 2023 年 5 月のことです。バザー再開を皆さんにお伝えしたときの喜びようは今も鮮明に覚えています。暗いトンネルのような自粛生活によりやく明るい出口が見えたと思えたことでしょうか。

しかし、その先に待っていたのは意外にも茨の道でした。芸能界では音楽への指向の違いからバンドが解散したというニュースをよく聞きます。それと同じようなことが起こりました。2019 年のバザーを再現するか、新たな方向に進むか、意見が二つに割れたのです。新しいバザー委員会を立ち上げたのは 10 月になってからのことでした。

「その割には今までと大して変わらない」と感じる方もいると思います。実は私もそう思いますし、そうであって欲しいと願っています。共同体は少しずつしか変わりません。無理をしたら壊れてしまうかも知れない。今回のバザーが変容の小さな第一歩になってくれたらどんなに素晴らしいことでしょうか。

2023 年バザー実行委員会

ニ俣川教会 ニュース

● 帰天されてから満 6 年、笹氣神父様が司牧された各教会でのお説教や巻頭言を纏めた本が出版されました。詳細は次号に掲載させていただく予定です。

● 12 月 2 日（土）に、ルカ上杉優太神父様のご指導で待降節黙想会が行われ、17 時のミサは上杉神父様の初ミサとなりました。教会 HP から黙想会の録画がご覧になれます。

● 12 月 3 日（日）10 時ミサの中で、梅村司教様の司式で堅信式が執り行われました。信者の皆様に見守られる中、11 名の方々が堅信のお恵みをいただきました。



● 12 月 15 日（金）に横浜療育医療センターでのクリスマス会に参加しました。教会からは、アンナ会、青年会、福祉委員会の協力のもと、クリスマスカードとプレゼントを用意し、姜神様からお渡ししました。センターの皆様からは手作りのカードとリースをいただきました。聖堂のクリスマスツリーとロビーの掲示板に飾ってありますのでご覧ください。

● 新しい「ミサの式次第」となって 11 月末で 1 年が経ちましたが、新しい賛歌にもようやく慣れてきたように思います。大きな声でミサごたえができるように、これからも心を合わせてごミサを捧げて参りましょう。



皆で祈りましょう！

毎年1月18日から25日はキリスト教一致祈禱週間です。この祈りは、新年の祈りとして、とても相応しいと思います。ヨハネによる福音書10章にある通り、私たち羊が一つになれるように一緒に祈りましょう。

キリスト者の一致を求める祈り

いつくしみ深い父よ、聖霊を豊かに注いでください。

わたしたちは、信じる民の一致を求めて祈ります。

散らされた者を一つに集め、守ってくださる愛なる神よ、

主イエス・キリストを信じる者を顧み、一つの洗礼によって聖とされた人々を、

愛と信仰の絆で一つに結んでください。

「皆が一つになるように」と呼びかける善き牧者の声を聞き分け、愛の心をもって、

互いに理解し赦し合って、召された唯一の信仰の道を歩むことによって、

平和と喜びのうちに、一つの檻において一つの群れとなりますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(「カトリック祈禱書 祈りの友」より)



11月17日にクリスマスラッピングを済ませた帽子のプレゼントを、末吉町教会内のステラマリスの事務所に185個、お届けすることができました。早くお届けできたので、翌日には船員さんにプレゼントが届けられ、幸いにも訪船活動中の写真が手に入りました。船員さんの笑顔の様子に一目一目積み重ねてきた長い時間の疲労がいつぱんに癒やされます。



185枚の帽子はステラマリス帽子を編む会のメンバーが月2回の活動日に編み、活動が終了すると、毛糸を家に持ち帰って次の活動日に編み上げて持ってきます。さらに、帽子を編むことが好きな方々が、執務室の横の箱から毛糸を持ち帰り、編み上がった帽子を箱に戻して下さった分とが合算されたものです。材料の毛糸も有難い献品があり、今のところ大変恵まれた環境で活動しています。

また、コロナ前のメンバーも戻ってきて、皆、おしゃべりをしながら、飴を舐めながら、リラックスした時間を過ごしています。帽子はそういった全てのことが編み込まれて思いっきり温かくなります。来年は、今年以上に帽子が編め、多くの船員さんに笑顔をお届けられますように、材料、メンバーの健康など全てのことが、神様に守られてよく回っていきますように祈ります。1月28日にはマリア会総会を予定しております。皆様どうぞご出席ください。

マリア会 K. M.



【編集後記】

主のご降誕を心からお祝い申し上げます。街はクリスマスの楽しくて可愛らしい飾りやイルミネーションに満ちていますが、何故か私たちもその風潮に流されているような気がします。25日を過ぎると、とたんにお正月を迎えるムードに切り替わってしまうという暮らしを、今立ち止まって見直してみたいかがでしょうか。三人の博士たちは空の大きな星に導かれて、馬小屋のイエス様の元を訪ねることができました。それは1月になってからのことでした。私たちも少なくともその日まで、ご降誕のお恵みを大切に過ごしてみませんか。今年、皆様からいただいたすべてのものに感謝いたします。どうぞ良いお年をお迎えください。(N. F. 記)